

「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ⑥

峠を越えて

——魂の同和教育実践者・森口健司——





あらゆる差別をなくしたい

—森口健司さんは、その果てしない闘いに生涯をかけている。中学校教師としてユニークな同和教育「全体学習」を実践、そこで培われた豊富な体験と強い信念をもとに、現在は徳島県の派遣社会教育主事として、差別解消への道筋をエネルギーに語りつづけている。

座右の詩“よろこび”「・・・・・・ゆくさきは幾多迫害ありとて
も この営みはわが終生の運命なり しかしてこの営みは わ
が生命の生きがいにして わが生命のよろこびなり」。森口さん
は、この道をまっすぐに歩きつづける。



“スダチの苗木”

森口健司さんは、徳島県内の同和地区に生まれ育ちました。
部落との出会いは、中学2年生の頃。思春期の霧の中で、呆然と成すす
べもなく立ち尽くすだけだったといいます。

森口さんは、ふるさとを離れ、京都の大学に進みます。しかし、そこで
見たものは、日常的に起こる差別発言と差別行為であり、差別の現実から
逃れることはできませんでした。

京都での学生生活をリアルに描いた、森口さんの原作をもとにした舞台
劇があります。“スダチの苗木”です（作品中で紹介）。そこには、部落
出身を隠し通す切なさ、虚しさが、父親との葛藤とともに描かれていま
す。

新しい同和教育—全体学習

大学を卒業した森口さんは、意を決してふるさと徳島に戻り、
中学校の教壇に立ちます。しかし、ここでも見たのは、差別に
喘ぎ苦しむ子どもたちの姿でした。

森口さんは、子どもたちの心に響く同和教育を模索し、情熱を
もって実践し始めました。そして、クラスの垣根を越えて学年
全体で問題を語り合う、全体学習というこれまでにない新しい
人権教育のスタイルを創り上げました。その実践記録は「峠を
越えて」にまとめられ、第46回全同教徳島大会・特別報告と
して発表されました。

本音で語り合うことは、自らを晒け出すこと—その勇気を見せ
合うことで、信頼の輪が広がる。全体学習は子どもたちに大き
な安心感を生み出していきました。



2003年11月制作／ 25分55,000円（税込）字幕なし

●お申し込み・お問い合わせは



(映) 有限
会社

博映商事

【飲酒運転撲滅宣言企業】

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp

